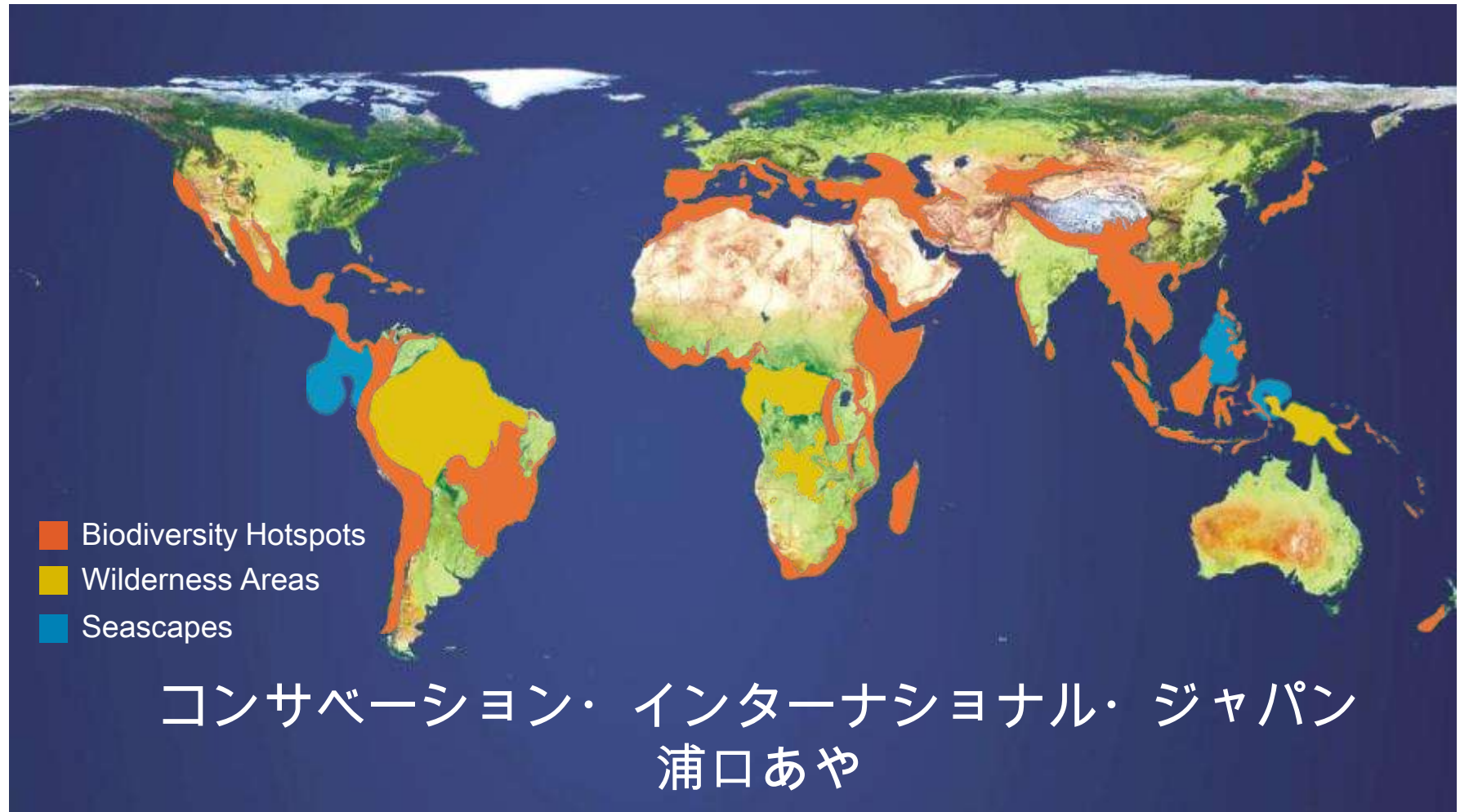
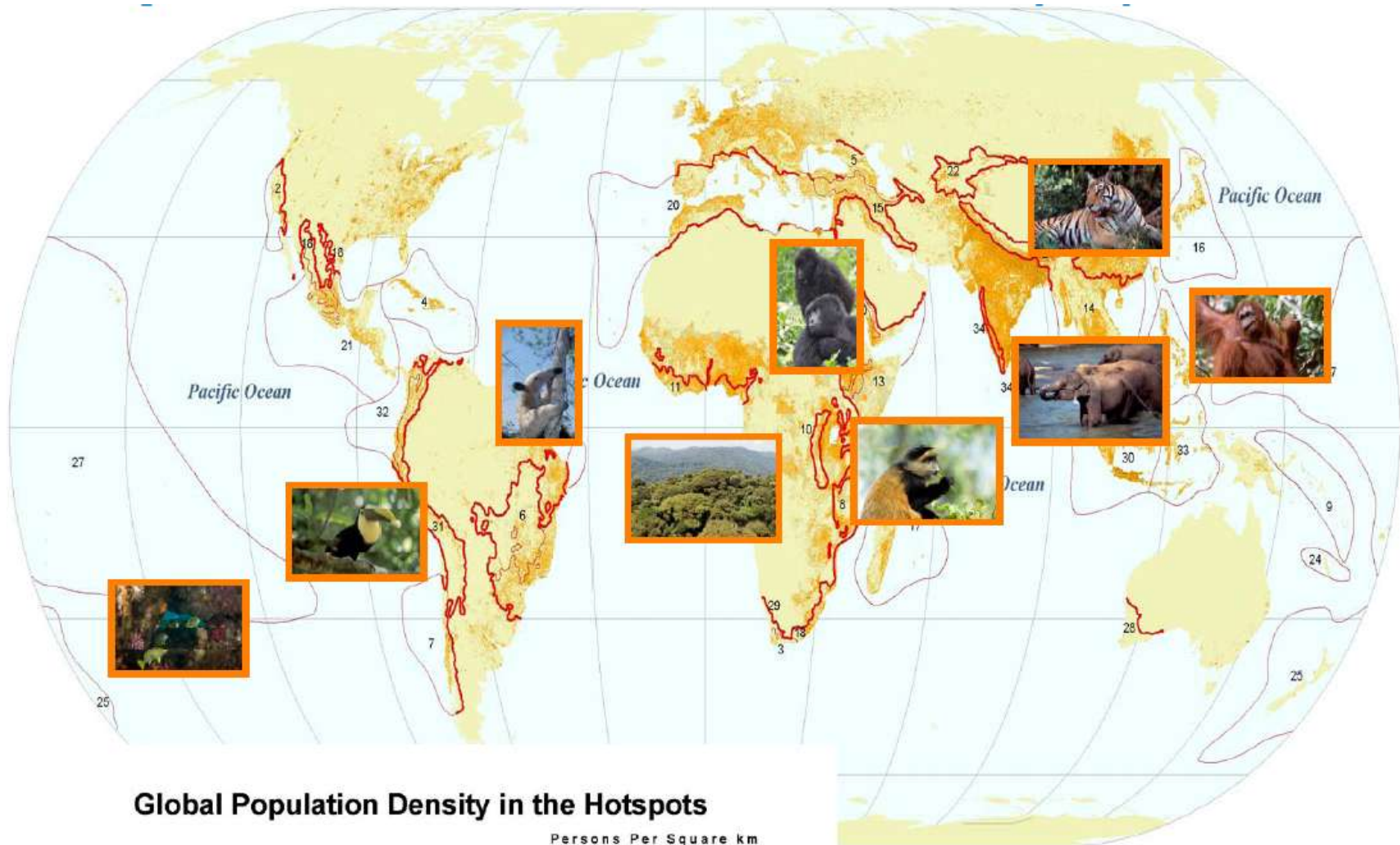




保全契約を通じたコミュニティによる森林保全 マダガスカルとカンボジアからの事例



高い人口と共にあるホットスポット



Global Population Density in the Hotspots

Sources:
Hotspots: Conservation International
Population Density: LandScan 2002

Eckert IV Projection
Central Meridian: 0.00

Persons Per Square km



保全ではなく破壊が選ばれる



いかに解決するか

CONSERVATION
INTERNATIONAL
Japan



生物多様性は現地の人々の手にある

- 保全が必要な土地は、地元住民が使っている土地である
- 保全にはコストがかかる

地元住民が保全を選択できるのは：

- 便益が得られるとき
- 実現するためのツールがあるとき

保全活動を地元住民にとって魅力的にするために：

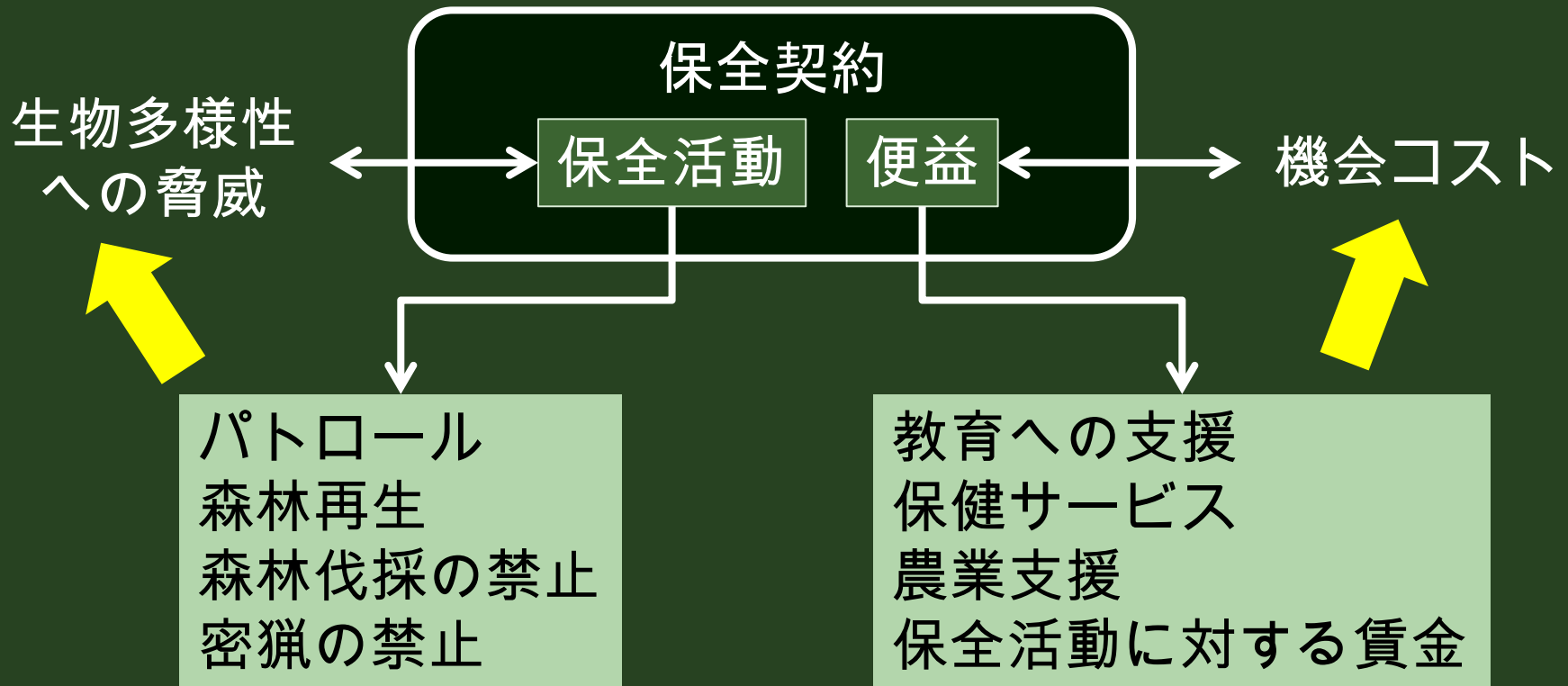
- 効果的で計測可能な保全活動との引き換えに具体的な便益を定期的に提供する



保全契約 (Conservation Agreement) の導入



保全契約



継続性の確保

保全契約は:

- 健全な発展を進めながら、自然資源を自らの手で管理する社会づくりに貢献

財政面およびガバナンス面での持続性の強化が必要

財政を支えるメカニズム

- ドナーからの寄付
- トラストファンド
- 国の政策を通じた支払い
- 地元産業の育成
- 炭素クレジット
-

地元のキャパシティを強化するメカニズム

- 地元組織の設立と強化
- 意思決定プロセスの透明化
- 弱い立場にあるコミュニティの参加
- 便益の衡平な分配

コンサベーション・スチュワードシップ・プログラム 2002年～



コンサベーション・スチュワードシップ・プログラム 実施に向けたステップ

フェーズ1: 実現可能性の分析

生物多様性に対する脅威、保全効果、関係者の能力
自然資源の権利所有者、利害関係者・コンフリクト、
プロジェクトコスト、財政メカニズムのオプション

フェーズ2: 契約に向けた準備

保全契約のコンセプトを資源利用者に提示
契約作成のためのルール、プロセスの策定

フェーズ3: 契約書の作成

保全活動、便益、モニタリング方法、罰則を
協議の下で作成

フェーズ4: 実施

契約内容の達成、改善

ステップ5: 持続的取組みにむけて

長期的な契約への移行、資金メカニズムの具体化

事例紹介：マダガスカル、カンボジア
（発表資料は、都合により削除）



現場からの教訓

- プロジェクトの開始前に、適切なレベルのインセンティブを設定するため、調査とコンサルテーションを実施
- 地元の人々による便益の選択
- 孤立したコミュニティにもアプローチしやすい、地元組織とのパートナーシップの構築
- 契約内容が守られなかった際の罰則も含め、明確な契約の作成
- 地元コミュニティとの信頼関係を築くための十分な時間
- 地元政府関係のキャパシティを向上させ、プロジェクトの持続性を確保

ありがとうございました

